

米国株のカギを握る米企業決算が本格化



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米国株のカギを握る決算発表スタート

米企業の2022年4-6月期決算発表がスタートしました。世界的な金融引き締めによる景気減速や中国のコロナ感染再拡大に伴う供給網の混乱がどの程度業績に悪影響を与えたかが焦点となります。

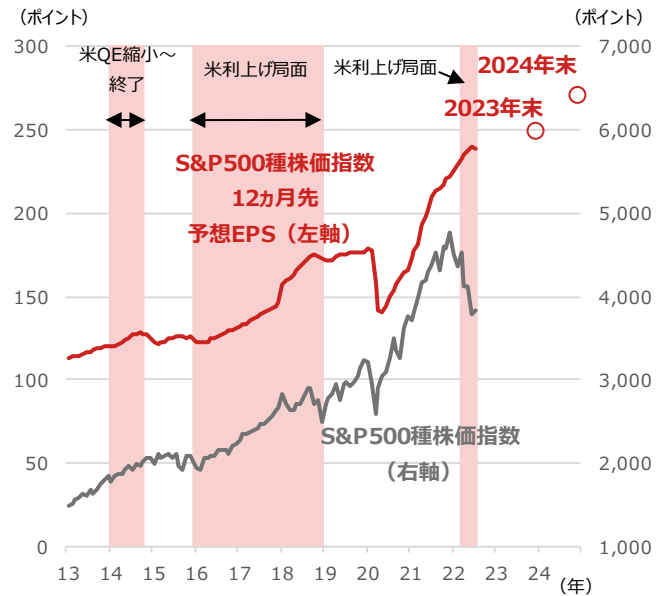
S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPSは、7月に入り低下に転じました。株価は業績拡大が続く中で年初から下落してきましたが、これは、先々の米企業業績の下方修正を織り込んだ動きだったといえるかもしれません（右上図）。もっとも、2024年末に向けて利益拡大が続くと想定されており、長期的な利益拡大シナリオは不変とみられます。

ポイント② PERは業績下振れの織り込みを示唆

米企業決算は事前予想に対して実績が上振れる傾向が続いています。2022年4-6月期決算の7月18日時点の集計値は、事前予想に対し0.2%ポイントの上振れとなっています（右下図）。ただ、実績が事前予想を上回った企業の比率は約66%と2020年以降の平均値の80%を大きく下回る出だしとなっています。株価の決定要因の一つである米長期金利については上昇一服感が出ており、金利上昇によるバリュエーション修正は一巡しつつあります。また前回の米利上げ局面のS&P500種株価指数の12ヵ月先予想PER（株価収益率）は約17倍でしたが、現在は約16倍と、ある程度業績下振れを織り込んだバリュエーションとなっています。

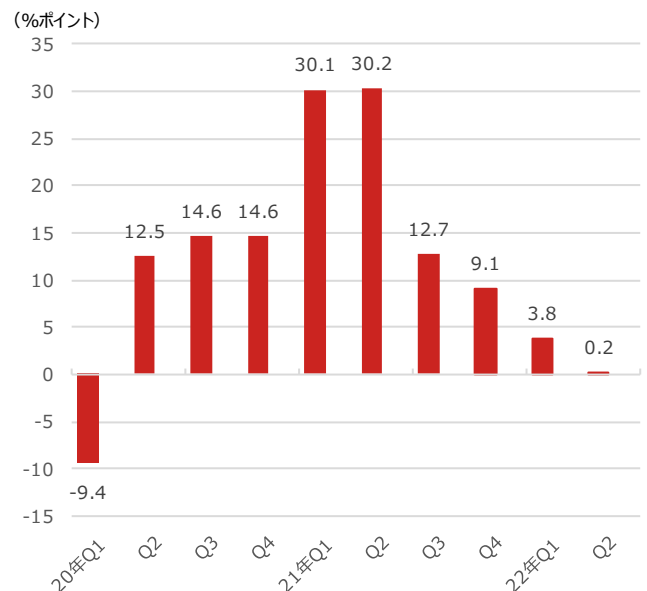
一方、今後の見通しに関しても市場は神経質になっており、18日に米アップルが「先々の経済下振れに対応するために来年の人材採用を抑える」と報じられたことに市場が反応したように、経営者が先々の見通しにどのような姿勢を示すかが、米国株のカギとなりそうです。

S&P500種株価指数と同予想EPS（1株当たり利益）



期間：2013年1月末～2022年7月18日、月次
 ・予想EPSの実線は12ヵ月先予想EPS
 ・○印は2023年末、2024年末時点の予想EPS（Bloomberg予想、2022年7月18日時点）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500企業のEPS成長率の事前予想と実績値との差



期間：2020年Q1（1-3月期）～2022年Q2（4-6月期）、四半期
 ・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
 ・2022年Q2は7月18日発表分まで
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。